

“P・G・A ルーティーンを学ぶ” ジュニア親子教室の報告

—2010年1月全米賞・ホートンスミス賞受賞記念の一環として—

「ゴルフプレーという“欲望の冒険旅行”のための標準装備として又、進歩という旅のルートが逸脱しないための指針として!!」この様な終りの言葉で第1回のジュニア教室の幕を下ろしました。

デレック先生より、こんな FAX が届いたことがありました。今、S・キャロライナのヒルトンヘッドから帰宅したところです。S・キャロライナでは PGA of AMERICA のティーチングセミナーがあり、私は他の講師達とゴルフコーチングプロ及びゴルフプロ達に、ゴルフの教え方をティーチしていました。嬉しいことに、私はプロ達から素晴らしい評価を受けました。

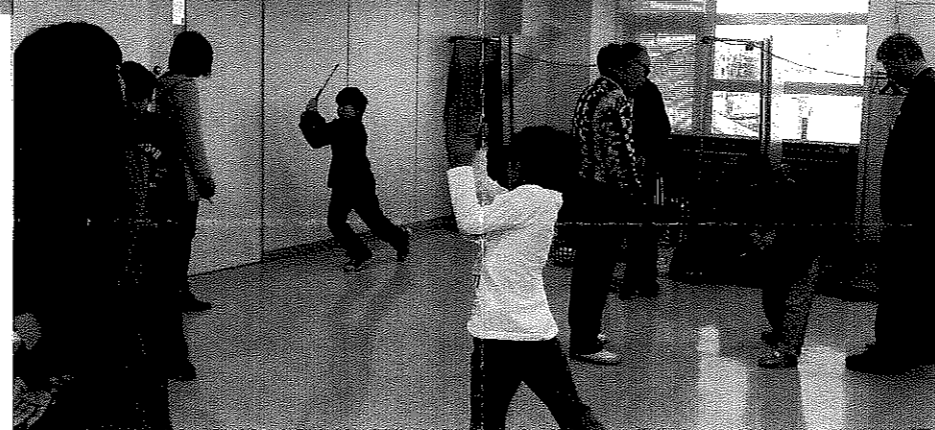
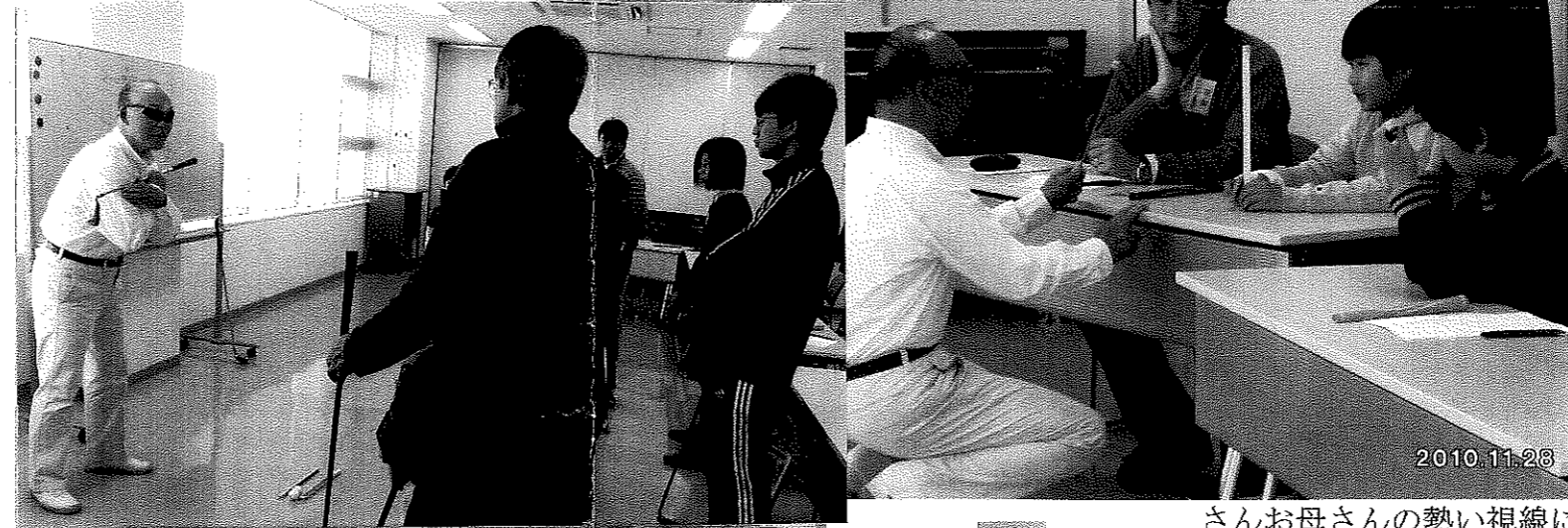
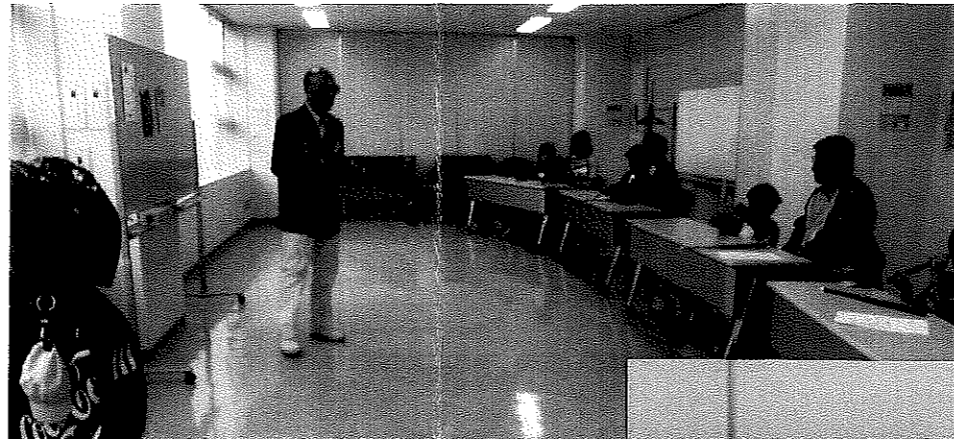
私達のプログラムに、整形外科医の視点からゴルフスイングについて講義した整形外科医がいました。彼はゴルフスイングにおける身体の動きについてスピーチしました。そのスピーチはゴルフスイングに関して一般に言われている考え方を打ち砕きました。彼は、私のゴルフスイングに関する身体の動きについて、今まで彼が会った最も知識の深い、精通しているゴルフ理論であると、非常に褒められました。私が信じていたことが立証されたことで、とても嬉しく思っています・・・と。

PGA と 4 ルーティーンという画期的な教える理論の確立に、大きな自信と役割を果たした出来事であった事をその FAX は物語っています。

初心者がゴルフに取り組むのも、中級者が上級に向けて、上級者がシングルプレーヤーを目指す進歩の過程において、映画“オズの魔法使い”の道に迷うアリスの様に、分かれ道に差し掛かった時推論し、判断し、決断を必要とする場面において、進歩という道から外れない、進歩という道を歩み続けるための判断「基準」として PGA ルーティーンが存在するのだと確信しています。

ジュニア親子教室は、コープ神奈川・上麻生店の協力で昨年6月～10月まで8回、川崎市生涯学習支援施設アリーノ主催で11月～今年の3月まで10回、ジュニア親子各5組10名、上麻生教室は4組8名で室内でのゴルフレッスンという形で行いました。

ジュニア教室から私が学んだことはたくさんありましたが、ジュニア達がどのように学んだかの確信はありません。しかし教室の中で短いクラブを握る仕草、1回ごとに確かなも



のようになっていくルーティーンを、私の視覚はしっかりと捉えさせていただきました。

印象的な出来事がありました。ジュニア達の姿を見て、たまたま別件で来館された高齢の女性に“私でも習えますか?”と声を掛けられました。

又、1人のジュニアのお父さんは、子供に空手を習わせた(自身も空手を習った)と二、三の道場を見学したが、

理論的な基礎教育がされない事を知り諦めました、と。回を重ねるごとにこの親子の目の輝きが変わっていったことに感動しました。

インドアで、それも人気のない基礎中の基礎“PGA ルーティーン”を学んでいただくという今回の試みは不安の幕開けでしたが、回を重ねるごとにジュニア達の目の輝き、父

さんお母さんの熱い視線に勇気づけられました。そしてコープ上麻生店とお手伝いいただいた二人の賛同会員様、アリーノの館長、副館長様に心からお礼を申し上げます。PGA ルーティーンは“欲望という冒険の旅”“進歩という旅”の標準装備としてジュニア達の頭(脳)の片隅でいい、脳の一部がこの試みに参加したことを記憶していただけたら幸せです。P・姿勢 G・グリップ A・方向とルーティーンはゴルフスイングに先駆ける大切な要因で、進歩のためにも必要な要素であり、ゴルフの「基準」の第一位にランクされることが望ましいと思います。